

NO.28

2018.3

みづき 便り

Mizuki Dayori

特別地方公共団体
神奈川県内広域水道企業団 広報誌



特集 体験! 水道水をつくる仕事③ 浄水場の仕事に挑戦!

管理室で、各施設や計器などが正しく動いているかチェック。

特集 体験！水道水をつくる仕事③

浄水場の仕事に挑戦！

シリーズ「体験！水道水をつくる仕事」。

第3回目は、川から取った水を水道水に変える浄水場の仕事を体験しました。神奈川県内広域水道企業団(以下、企業団)の「綾瀬浄水場(綾瀬市)」を訪ね、浄水場の仕事を体験してくれたのは、横浜市立緑園東小学校4年生の井上夏音さん、緑園西小学校4年生の松井心花さんの二人です。水道水ができるまでの各工程を実際に体験してみました。

今回の先生

神奈川県内広域水道企業団
技術部 綾瀬浄水場
副場長
大用 光則さん

リポーター

横浜市立緑園東小学校
4年1組

井上 夏音さん

横浜市立緑園西小学校
4年3組

松井 心花さん

まず、「水面監視」に出発だ！

水面監視とは、川から取った水が、各工程で正常に処理されているかを目で見て点検すること。川から取った水が最初に届く場所「着水井」では、塩素による消毒や硫酸によるpHの調整が行われます。また、川の水から異常な臭いなどが検出されたときは、活性炭を入れて臭いを取り除きます。ここから浄水場の仕事が始まります。下の写真は薬品を注入するための施設です。



相模取水施設から届いたばかりの相模川の水は、まだ濁っていることが良く分かる。

水道GLP更新審査(現地審査)が行われました

企業団の広域水質管理センターで、11月22日に水道GLPの更新審査が行われました。水道GLPとは、(公社)日本水道協会がさまざまな水質検査が正しく行われていることを認定する制度のことです。企業団では、平成17年度に全国で2番目に取得して以来、日々検査技術の向上に努めています。審査の結果、更新が認められました。



宮ヶ瀬クリスマスキャラバン隊に参加しました

12月10日、厚木市の「アミューズあつぎ」で開催された「宮ヶ瀬クリスマスキャラバン隊」に参加しました。会場には、宮ヶ瀬ダムのPRのため、宮ヶ瀬で育ったもみの木が展示され、企業団からウォービーが参加しました。宮ヶ瀬ダムは県内最大の水がめであり、企業団の重要な水源の一つです。ぜひ、みなさんも宮ヶ瀬ダムを訪ねてみてください。



『水道企業団ニュース』

JICA海外技術研修員を受け入れました

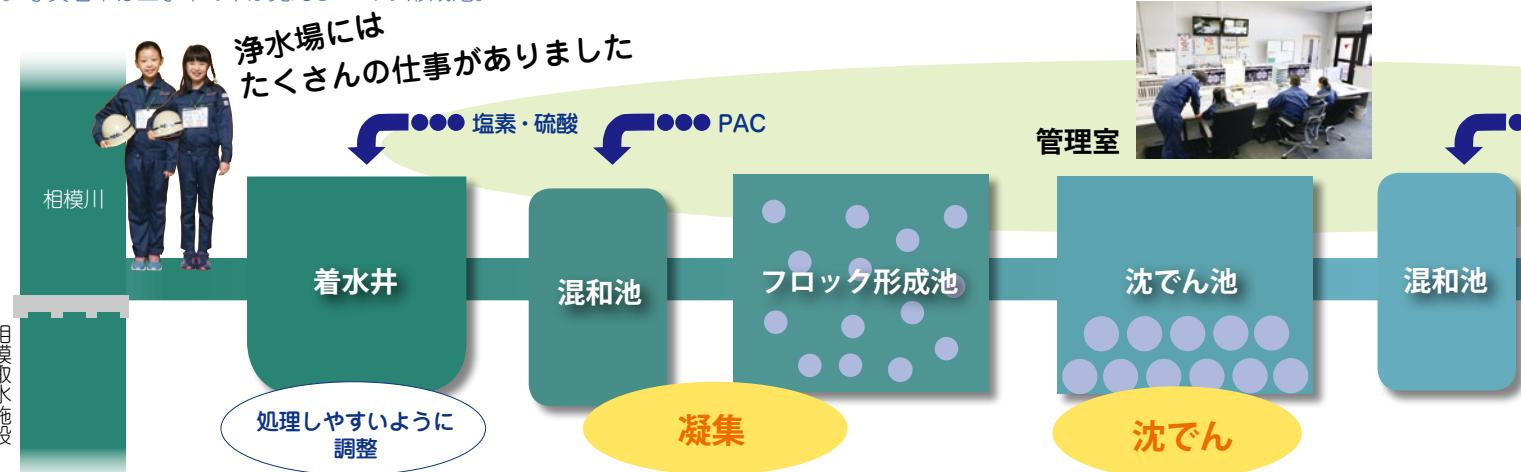
企業団の広域水質管理センターで、JICA(国際協力機構)の海外技術研修員を受け入れました。この研修では、タイのバンケン浄水場の技術者に日本の水質検査機器などについて学んでいただきました。国、地域によって水道事情は大きく異なります。日本とタイの水道の状況について意見を交換することができ、私たちにとって貴重な経験となりました。





「混合池」で川から取った水に凝集剤(PAC=ポリ塩化アルミニウム)を入れます。次に「フロック形成池」で川の水に含まれる汚れを「フロック」というかたまりにして沈みやすくします。写真右下は工事中で中が見えるフロック形成池。

「沈でん池」で大きなフロックを沈めて取り除きます。この後、水は「急速ろ過池」へと送られ、さらに細かい汚れを取り除きます。



浄水場の仕事とはどんなものですか？

大用 浄水場の仕事を分かりやすくいうと「凝集」「沈でん」「ろ過」「消毒」です。川の水に含まれる汚れをかたまりにして(凝集)、沈めて(沈でん)取り除き、さらに細かい汚れを砂や小石などの層を通して取り除き(ろ過)、次亜塩素酸ナトリウム(塩素)で殺菌(消毒)をして水道水をつくります。



水はどこから来るんですか？

大用 綾瀬浄水場に来る水は相模川の水です。相模川を

流れる水は、相模取水施設(海老名市)でくみ上げられて約5kmの導水管を通って綾瀬浄水場に到着します。およそ3時間くらいかかるんですよ。



どのくらいの量の水道水をつくるんですか？

大用 綾瀬浄水場は、企業団の浄水場の中では一番新しい浄水場で、東京ドーム5個分の面積があります。川の水から水道水をつくる工場として1日50万m³の水道水を作ることができ、2016(平成28)年度は1日平均、約22万m³の給水を実施しました。これは25mプール600杯分に当たります。

企業団 N O W ~安全・安心な水道用水の安定的な供給に向けて~

応急給水訓練を行いました

12月20日、横浜市水道局三ツ境水道事務所と企業団で応急給水訓練を実施しました。これは横浜市水道局と締結している「災害時における応急給水の実施に関する協定」に基づき、毎年、行っているものです。今回の訓練は、地震で市内の広い範囲に断水が発生し、横浜市水道局から企業団へ応急給水の要請があったという想定で実施しました。このような訓練を毎年行うことにより熟練度を高め、いざという時に備えています。



帰庁報告会を開催しました

1月11日、帰庁報告会を開催しました。帰庁報告会は、他団体に派遣された職員や長期の研修を終えた職員が、その知識や経験を他の職員と共有するため開催しています。海外の水道や耐震化の調査など、さまざまな報告がありました。みんなの生活を支えるインフラとして、質の高い業務を行えるよう、引き続き努力していきます。

4者協定に基づく合同訓練を実施しました

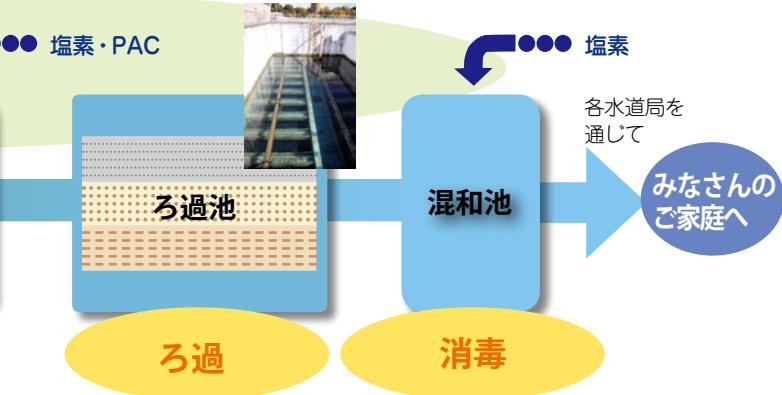
2月6～9日の4日間、大阪広域水道企業団、埼玉県企業局、阪神水道企業団と合同訓練を実施しました。災害発生時の相互応援を円滑にするため、災害発生から通信、移動、現地での応急給水まで、一連の訓練を行いました。「訓練以上のこととは実践ではできない」という言葉のもと、とても身の引き締まる訓練となりました。関東と関西の事業者のいっしけが被災した場合に互いに応援し合えるよう、準備をしています。





施設の巡回点検

「管廊」は、浄水場の地下を走るまさしく「さまざまな管がある廊下」です。水を送る管をはじめ、薬品を送る管などが縦横に走っています。さまざまな設備を動かすモーターやポンプなどもあり、日常の点検が欠かせません(写真左・右上)。右下は強化ガラス越しに観察できる急速ろ過池のろ過層です。



《子どもたちの感想》

-  水道水ができるまで、こんなにたくさんの仕事をあることを知りませんでした。いろいろ体験できて楽しかったです。
-  普段見ることができない場所を見たり、仕事を体験したり、浄水場のことを詳しく知ることが出来て良かったです。



「管理室」は場内の設備が正常に動いているかなどを集中的にコントロールするところです。ここで、着水井で注入する消毒剤の量や急速ろ過池の洗浄などの設定を体験しました。消毒剤の注入量は季節や天候で細かく決まっており、急速ろ過池は6日に1回洗浄します。



急速ろ過池の洗浄を確認。洗浄に使った水は排水池へ送られ、あらためて浄水処理が行われます。

《お母さん・お父さんの感想》

- ★私たちの元に水が届くまで、たくさん人の努力があるんですね。その仕事の内容を知り、「安心」をあらためて実感しました。
- ★何気なく使っている水ですが、そのありがたさが分かりました。もっとPRをして多くの人の水への意識が変わればいいですね。

〈シリーズ〉 水源のまち・流域のまち

Vol.3

足柄上郡 松田町

松田町は神奈川県西部に位置し、人口およそ1万1千人、面積37.75km²の豊かな自然環境を誇る町です。酒匂川、川音川、中津川などの流域に開け、北部は丹沢大山国定公園に指定されています。

都心からおよそ70km、小田急線の「新松田駅」、JR御殿場線の「松田駅」の2駅があり、市街地を国道246号が横断し、東名高速道路との連絡点としての役割を担っています。その利便性の高さもあり、毎年多くの観光客が清流や緑を求めて訪れ、丹沢登山の基地の一つとして、また、酒匂川のアユ釣りやヤマメなどの渓流釣りでも知られています。

富士山や箱根外輪山を望む市街地は年

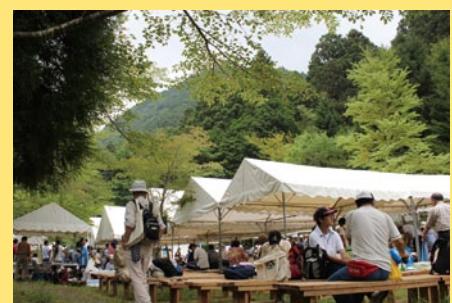
間を通して温暖な気候で、「暮らしてみたいまち」、「ずっと暮らし続けたいまち」を目指し、環境保護や生活優先を基本に、子育て支援や定住化施策などを中心としたまちづくりが進んでいます。

歴史は古く、平安～鎌倉時代には波多野氏や松田氏が、戦国時代になると北条氏がこの地を支配し、古くから箱根越えの要所、足柄街道の主要な町として発展してきました。町としての歴史は1909(明治42)年の町制施行で始まりました。温暖な気候を生かしてお茶やミカン栽培などが行われています。

松田町には、神奈川県内広域水道企業団と深い関わりのある場所があります。町の北部、酒匂川上流中津川源流域の「やどりき水源林(松田町寄)」です。水源林(水源涵養保安林)とは、山地に水を蓄える目的で設けられた森林のことです。「やどりき水源林」は、広さおよそ529ha、比較的交通の便の良いところで多様な森林の状態を観察できることから、森林づくりを「見

て学ぶ」「体験する」「交流する」場として県民に活用されています。神奈川県内広域水道企業団も、県西地域を水源とする事業への理解と関心の向上のために「やどりき水源林のつどい」などに積極的に参加しています。

「やどりき水源林」周辺では、豊かな水と森を背景に、「寄口ウバイまつり」「寄自然休養村若葉まつり」など、季節を彩るさまざまなイベントが催され、町民だけでなく、多くの人の憩いの場所にもなっています。



やどりき水源林のつどい(写真提供:松田町)



横浜市水道局

「水道・下水道使用水量等のお知らせ」の用紙が変わりました

横浜市水道局キャラクター
はまピョン

水道料金は、2か月に1度、水道メーターを検針し、「水道・下水道使用水量等のお知らせ」用紙をポストに投函してお知らせしています。このたび、検針に使用している端末をスマートデバイス化し、平成29年12月から新たな端末で検針を開始しました。検針員は、「水道メーター検針中」のステッカーを貼ったスマートデバイスを持って検針を行っています。

新端末の導入に伴い、「水道・下水道使用水量等のお知らせ」用紙が変わりました。これまでより用紙のサイズが30%程度大きくなり、文字のサイズを可能な限り大きくしました。その結果、「とても見やすくなつた」との声をいただきました。

今後も水道メーターの検針業務にご協力をお願いします。

横浜 水道メーター検針 

神奈川県企業庁

現在募集中!
水道フレンズになろう♪県営水道キャラクター
カッピー

お客さまと県営水道が友だちのように交流して水道に関する疑問や日頃の不安を解消し、これから水道と一緒に考える、そんな水道フレンズになってみませんか。

普段は見ることができない浄水場やダムの見学、夏休みにはお子さまやお孫さまと一緒に参加するイベント、水道に関する配信メールやアンケート調査など、さまざまな活動を予定しています。

ぜひ県営水道フレンズホームページ内の応募フォームよりお申し込みください♪
応募締切は3月14日(水)です。
※県営水道の給水区域内にお住まいの方のみ応募できます。詳しくはホームページをご覧ください。

水道フレンズ 

川崎市上下水道局

静岡市・札幌市と災害に備えて覚書を締結しました

川崎市上下水道局
キャラクター
ウォータン

川崎市上下水道局では、地震等に備えて平成30年1月22日に静岡市と、25日に札幌市と「情報連絡調整担当水道事業体の活動に関する覚書」を締結しました。



この覚書により、地震等の発生時には応援都市が被災都市に代わって全国に応急給水の要請を行うなど、応援要請に関するコードイニシアチブとしての活動を行うことになります。両都市と川崎市は、以前から「19大都市水道局災害相互応援に関する覚書」により相互に応援幹事都市となっていましたが、今回の覚書により、さらに強い結びつきができましたので、より迅速で効果的な災害支援ができるように災害訓練等を積極的に行っていきます。

川崎市上下水道局 災害時相互応援 

横須賀市上下水道局

桜の散策 走水水源地

横須賀上下水道
イメージキャラクター
アクアン横須賀市上
下水道局では、

桜の開花時期に合わせ、普段は立ち入ることのできない走水水源地を無料開放します。



東京湾に面した走水水源地には約120本の桜が咲き誇

り、青い海とのコントラストは見ごたえ十分！一見の価値があります。皆さまお誘い合わせのうえ、ぜひともご来場ください。

【場所】横須賀市走水1-2-1 走水水源地

【期間(予定)]3月30日(金)~4月8日(日)午前9時~午後5時
(開花状況により、開催期間は変更となる場合があります。)

【催し】・走水産地苔など地産地消商品の販売(土・日曜日のみ)

- ・日本遺産構成文化財『走水砲台跡ガイドツアー』(3月31日(土)、4月1日(日)のみ、当日受付、参加費450円(未就学児無料)、荒天中止)

【注意】・火気など危険物、動物(補助犬を除く)の持ち込みはできません。

・事前の場所取りはご遠慮ください。

詳細は、横須賀市上下水道局HPで

横須賀水道 桜

平成30(2018)年度 予算の概要

■用水供給先

神奈川県、横浜市、川崎市及び横須賀市

■構成団体への予定供給水量

年間総供給水量



■事業計画の着実な実施

水道用水の効率的な安定供給

施設老朽化対策ほか 約66億円

災害や事故に強い広域水道

地震対策ほか 約8億円

■経営基盤の強化

健全な財務体質の維持・改善(収益的支出の抑制、企業債(地方債)残高の縮減)。組織の活性化と人材育成の強化・充実(職員研修及び他団体人事交流の促進)。

※詳しくは神奈川県内広域水道企業団のホームページをご参照ください。

平成30年度予算では、水道利用者の皆様の生活の基盤と社会経済活動を支えるため、中間点(3年目)を迎える事業計画に基づき、水道用水の安定供給の維持に欠かせない施設整備などを行います。また、料金収入などの限られた財源を最大限活用する緊縮型予算(総額685億円)となっています。

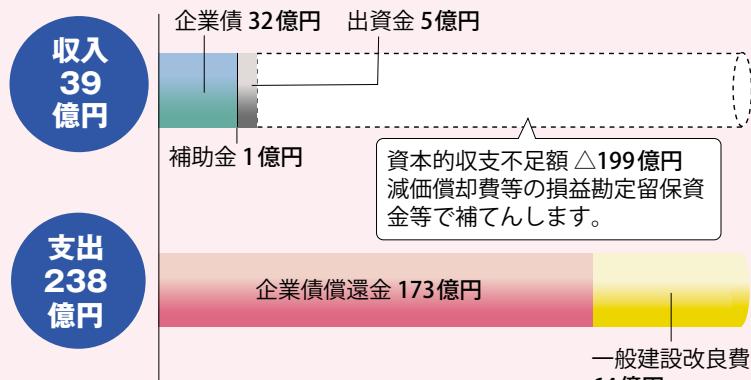
水道水の生産に関する予算

収益的収支(消費税込み)



施設の建設・改良に関する予算

資本的収支(消費税込み)



※グラフ中の数字は端数処理のため、計において一致しない場合があります。

「水あれこれトーク」は今回お休みします。



「みずき便り」読者の中から、抽選で5名の方に企業団オリジナルの「やまなみ五湖のブレンド水」340ml缶1ケース(24本入)をプレゼントします。ご希望の方はハガキ、FAXまたはメールで、住所／氏名／電話番号／年齢／職業／今号の内容へのご意見・ご感想を明記の上、下記までお寄せください。

応募締め切り: 平成30年4月30日(月)必着 ※当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

応募先: ☎231-8445 横浜市中区太田町2-23神奈川新聞社クロスメディア営業局内「やまなみ五湖のブレンド水プレゼント」係 FAX 045-227-0765 Eメール kokoku@kanagawa-np.co.jp

●プレゼントに関するお問い合わせは ☎045-227-0737 までお願いいたします。



編集後記

今号は、特集「体験! 水道水をつくる仕事」の第3回目として、普段みなさんが飲んでいる水道水を作っている浄水場のお仕事をリポーターの二人に体験してもらいました。

今回の特集はいかがでしたか。蛇口をひねれば出てくる水道水ですが、川から取った水から飲めるようにするまでにいろいろな仕事があることがわかつてもらえたでしょうか。次回からの特集も楽しみにしてください。

(総務・広報係)

神奈川県内広域水道企業団とは

三保ダムと宮ヶ瀬ダムに貯めた水を浄水処理し、構成団体を通じて、利用者の皆様に、安全で安心な水道水を供給している「特別地方公共団体」です。

